

三、「リー」卿 (Laird) ハ之ニ對シ本會議ノ目的カ單ニ軍備制限ノミニ存セスシテ軍備節約ニモ存スルコトヲ指摘シ、且一萬噸ヲ超過スル巡洋艦ハ現在何處ノ國ニテモ建造セラレ居ラス此際之ヲ制限スルハ時宜ニ適シタルモノニ非サヤト述フ

四、議長ハ目下米國ノ建造中ノ巡洋艦ハ七千五百噸ナルコト及佛國輕巡洋艦ハ八千噸ナルコトヲ述ヘ「リー」卿ノ所說ヲ支持シ且直ニ本件ノ討議ニ入ルヘキヤ否ヤヲ諮ル

五、「アクトン」中將 (Vice-Admiral Acton) ハ伊國代表ハ本提案ニ別段異議ナキモ噸數ノ制限ニ就キ目下請訓中ナリト述フ

六、壇原次官ハ日本代表ニ關スル限リ本提案殊ニ備砲ノ點ニ就テハ異論ナキモ加藤男爵力次回ノ本委員會ニ出席スヘキヲ以テ成ルヘク本件討議ノ延期ヲ希望スル旨陳述ス

第四項 第十三回軍備制限總委員會

一、先ツ議長ハ「ロード、リー」ノ修正ヲ加ヘタル案(第十回總委員會參照)ヲ朗讀ス

二、加藤全權ハ補助艦噸數及ヒ武裝制限ニ關スル「ヒューズ」氏案ニ對シ余ハ之ヲ經巡洋艦ト解釋シ其排水量一萬噸砲八吋以下ニ同意ス但シ高速力大型商船ハ戰時巡洋艦ニ改造シ得ヘキヲ以テ「ヒューズ」氏原案第三十節ノ主義ニ依リ何等カノ規定ヲ設クルニ非サレハ輕巡洋艦ニ關スル本制限ハ無意味ナルヲ惧アリト述フ

三、議長ハ商船ノ武裝制限ニ關シテハ充分ナル考慮ヲ拂フヘシ尙ホ補助艦制限ニ關シテハ元來補助巡洋艦ヲ目標トシテ規定セントシタル處「ロード、リー」ノ修正ニ依リ主力艦及航空母艦ヲ除ク一切ノ補助艦艇ニ適用セラルルモノナリ故ニ本規定ノ適用ヲ受ケサルモノハ(一)主力艦(二)航空母艦(三)現有ノ軍艦ナリト説明シテ次テ本規定ニ對スル「アクトン」(Acton) 中將ノ承認アリタル後議長ハ目下請訓中ナル佛國全權ヲ除キ全部同意シタル旨ヲ宣シ散會セリ

伊委員
アクトン
中將

加藤全權

第五章 太平洋島嶼防備問題

第一節 假協定成立迄

第一款 防備問題論議ノ端緒

政府ノ訓令

一、帝國政府ハ太平洋ニ於ケル諸島ノ防備問題ニ關シ華府會議ニ於ケル帝國全權ニ對シ其出發ニ臨ミテ左ノ如ク訓令セリ「太平洋諸島防備ノ撤廢若ハ制限ニ關シテハ平和維持上ノ見地ヨリ適當ノ機會ニ於テ帝國ヨリ之ヲ提議シ少クモ現狀維持ノ程度ニ協定ヲ成立スルコトニ努メラレタシ」

然ルニ比率問題ニ關シ加藤全權カ十一月二十三日左ノ四案ヲ掲ケテ政府ニ請訓スル處アリシニ對シ(第二章主力艦問題第一節第二款第二項註ノ一ノ一、參照)

一、我提案ヲ固執スル事

二、割合ヲ十對六、五前後トシテ陸奥ヲ加フル事

三、割合ヲ十對六トシ陸奥ヲ加フル事

四、米國提案通リトスル事

政府ハ左ノ如ク回訓シ來リ防備問題ヲ以テ六割承諾ノ條件トスルノ方針ヲトリタリ

「御指示ノ如ク海軍制限問題ニ關シ英米特ニ米國ト衝突ヲ避クル事必要ナルニ付飽ク迄和衷的態度ヲ持シ我提案ヲ貫徹スル様全幅ノ御努力アリタク若シ已ムヲ得サル場合ニ於テモ貴案第二、十對六、五ニシテ之ニ協定スル様努メラレ度ク閣下ノ御盡力ニ拘ラス尙西國ノ情勢ト大局ノ利益ノ爲讓歩ノ已ムヲ得サル事態トナリ貴案第三ニ落着カサルヲ得サル場合ニハ太平洋防備ノ減縮又ハ少クトモ現狀維持ノ了解ヲ確保シ以テ米國艦隊ノ太平洋ニ於ケル集中活動力ヲ減殺シ之ト

「バル
フォア」來
訪

均勢ヲ保テ十對六ニ協定シタル意ヲ明ニシ得ル途ヲ十分トリ置ク様努メラレタキ第四ハ出來得ル限り避ケラレタシ」
 二、十一月三十日専門委員ノ會合ニ於テ主力艦問題カ遂ニ不一致ニ終リ翌十二月一日「バルフォア」氏ハ加藤全權ニ會見ヲ
 求メ來リ正午加藤全權ノ旅館ニ於テ會見加藤全權ハ同氏ニ對シ海軍問題ニ關スル日本ノ立場ヲ詳細説明シタルニ「バル
 フォア」氏ハ「米國ノ提案ニ對シ細目ニ關シテハ幾多論議ノ餘地存スルモ要スルニ大局ヨリ見テ之ヲ決スルニ非サレハ協
 定不可能ナリ故ニ之ヲ解決ニ關シ何等御意見アラハ及ハス乍盡力致サム」ト述ヘタルヲ以テ加藤全權ハ直接主力艦問題
 ニ關スル返答ヲ避ケテ南洋防備ニ就テ左ノ如ク申述ヘタリ

「海軍制限トハ別問題ナルモ茲ニ政府並ニ國民ノ希望スルコトアリ南洋防備問題之レナリ」

ト前置シ地圖ニ就テ米國ノ布哇及比律賓及「グアム」日本ノ臺灣、澎湖島小笠原島及奄美大島ノ現狀ニ付説明シ且ッ
 「從來米國ヨリノ新聞電報ニ依リ米國ハ比律賓「グアム」等ニ巨費ヲ投シテ要塞ヲ築キ大海軍根據地ヲ造ルカ如キ報道屢
 タ新聞紙上ニ現ハレ日本國民ハ此報道ヲ以テ米國ヨリノ脅威ト解シ格別ナル印象ヲ得ツツアリ故ニ余等ハ海軍制限ト南
 洋防備問題トヲ切離シテ考ヘ難シ故ニ南洋諸島ノ防備ニ關シ何等カノ諒解ヲ得ハ日本國民ハ大ニ安心スヘシ」ト述ヘ更
 ニ英國ノ香港新嘉坡ノ位置ヲモ指摘シタル處「バルフォア」氏ハ非常ナル注意ヲ以テ之ヲ傾聽シタル上若シ此問題カ何等
 カノ形ニ於テ協定シ得タリトセハ海軍制限ニ對スル國民ヘノ説明トナル御考ナリヤト問ヘルヲ以テ加藤全權ハ之カ説明
 ノ一部分タルヘシト認ムル旨答ヘタリ

「バルフォア」氏ハ委細了解シタリ此話ハ「ヒューズ」氏ニ傳ヘテ差支ナキヤト問ヘルヲ以テ加藤全權ハ差支無キ旨答ヘタ
 リ更ニ「バルフォア」氏ハ防備ノ撤廢ハ困難ナラムモ現狀維持ナラハ穩當ナルヘシ然レトモ布哇ニ付テハ米國ハ到底承知
 セサルヘシト語リ更ニ琉球ニ關シテモ一二ノ質問ヲ爲セリ

翌十二月二日佐分利參事官カ英國全權秘書官「ハンケー」氏 (Hinkley) ヨリ開キタル處ニ依レハ

「バルフォア」氏カ「ヒューズ」氏ニ右ノ會見談ヲ極マテ詳細ニ縷述シタル處南洋防備問題ニ付テハ「ヒューズ」氏ノ感興ヲ

惹キタルモノノ如ク之ヲ同僚全權ト相談スヘシト語レル趣ナリ

日英米三
全權ノ會
見

三、同二日加藤全權カ求メニ依リ國務省ニ於テ「ヒューズ」「バルフォア」兩氏ト會見海軍制限ニ關シ折衝ノ際「ヒューズ」氏
 ハ南洋防備問題ニ言及シ加藤全權ニ向ヒテ「貴見「バルフォア」氏ヨリ承知セリ布哇ハ論議シ難シ又此問題ハ日米兩國間限
 リノ問題ニ非ラス英佛蘭等東洋ニ關係アル凡テノ國ト共ニ協調スヘキ問題ナリ但シ其中ニハ貴下ノ住ヒツツアル日本本
 土ヲモ含ム」ト笑ヒ「故ニ此問題ニ付テ協議セムトスルトキハ自分ハ之ニ應スル準備アリ」ト述ヘタルカ日本本土ヲ含ム
 トノ言アリタル故ニ加藤全權ハ「大體論ニ付テハ論シ得ルモ未タ詳細論ニ入ル準備無シ」ト答ヘテ「ヒューズ」氏ノ腹案ヲ
 訊ヌルコト無ク態ト深入リスルヲ避ケタリ此時「バルフォア」氏ハ防備ノ件ハ四國協商ニ關連シ研究シテ然ル可シト述ヘ
 タルモ「ヒューズ」氏答ヘス本問題ハ之ニテ打切リタリ

註 本項ニ付テハ第二章主力艦問題第二款第三項第四項ヲ參照スヘシ

第二款 華府全權帝國政府間往復

請訓

一、上述兩度ノ會見ノ結果加藤全權ハ其ノ意見ヲ左ノ如ク帝國政府ニ電稟セリ

「日本側ハ南洋防備問題ヲ以テ日米間ノ問題トナスモ米國側ハ之ヲ以テ東洋並ニ太平洋ニ在ル島嶼ノ防備ニ關係アル各
 國間ニ於テ協議スヘキモノナリト主張シ之ニ對シテハ反對スヘキ理由ヲ發見シ得ス然ルニ本問題中ニ我本土ヲモ包含ス
 ルモノトセハ本土ノ防備制限ニ同意シ難キハ無論ナリ又太平洋ニ在ル島嶼ノ防備ニ關シ何等カ協議スルモノトセハ自然
 島嶼ノミナラハ諸大陸ノ防備ニモ論及スルヲ至當ト認ムルモ南北兩米ノ西岸、濠洲或ハ支那沿岸等ニモ論及スルコトト
 ナリ複雑ナル問題ヲ生セハ隨ツテ解決困難ニ陥ルト認ムルヲ以テ此際我ヨリ進ムテ日米間ノ防備ニ關シ提議スルハ結局
 蝮蛇トナラムコトヲ恐ル故ニ本問題ハ暫ク我ヨリ進ムテ論議スルヲ避ケ若シ問題出テタルトキハ四國協商問題ト關連シ
 協議スル方然ル可キ旨述ヘ置キ一面此問題ニ對シテハ我方ニ於テ豫メ研究シ置キ他面英米兩國側ノ態度ヲ察シタル上我

在東京米
國大使ノ
訪問大臣

態度ヲ決スルコト然ルヘシト存セラル何分ノ御方針本官心得迄ニ御訓令アリ度シ」

二、然ルニ十二月九日在東京米國大使カ外務大臣ト會見ノ際防備問題ニ關スル國務卿ノ電訓ヲ持參シテ之ヲ朗讀セルカ右ニ依レハ國務卿ハ我全權ト會談ノ際米國政府ハ比律賓及「Man」ノ防備現狀維持ニハ異議無キモ日英佛三國ニ於テモ其所領島嶼ニ關シテ同様ノ保障ヲ與フルコトヲ要スル旨言明セリトノコトナリシニ付外務大臣ハ布哇ハ如何ト質問シタルニ同大使ハ布哇ハ米本土ノ繼續ト認ムルヲ以テ問題外トスヘク又濠洲、新西蘭及日本ノ如キモ亦同様ナルハ勿論ナリト答ヘタリ外務大臣ハ右米國大使ノ言カ我全權ヨリ報告サレ居タル米國側意嚮ト甚タ數相違シ居タルヲ以テ特ニ念ヲ押シテ確メタルニ同大使ハ右ハ電訓ノ通りニテ間違無キ旨答ヘタリ

外務大臣ハ右會談ノ模様ヲ我全權ニ報知スルト共ニ左ノ如ク電訓セリ

「防備問題ニ關スル米國側ノ意嚮ニシテ果シテ米國大使ノ言ノ如シトセハ防備問題ノ關スル限リ右米國側意嚮通りニテ差支無キ布哇ノ防備ニ關シテハ念ノ爲廟議ニ諮リタル上追訓スヘシ」

加藤全權
ノ報告

三、翌一月十日右外務大臣來電ニ對シ加藤全權ハ次ノ如ク電答セリ

「爾來本問題ニ關シテハ充分注意ヲ拂ヒ英國海軍側トモ意見ヲ交換セシムル爲十二月九日山梨少將ヲシテ英國側「Cathedral」少將ニ會見セシメタル處大體本問題ニ關スル日本ノ態度ヲ諒トシツツアリタルモ米國ハ到底布哇ヲ入ルコトヲ承諾セサルヘク英國ハ香港ヲ現狀維持トナスニハ異議無キモ新嘉坡ヲ制限スルノ意無キ旨ヲ述ヘタリ

又當地新聞ニ於テモ比率問題ノ行詰ト同時ニ前述海軍根據地ニ對スル我方ノ意嚮ニ關シ種々臆說ヲ傳フルコト頻繁トナレルモ反對論ハ多カラス旁々比率問題ト同時ニ更ニ協議ヲ進ムル心算ニテ準備中ナリ而シテ米國大使ノ申出ハ比率問題ニテ行詰レル形勢ヲ緩和スル爲トモ解釋サレサルニ非ス

元來出發前陸海軍兩省ニテノ研究案ニ依レハ布哇ヲモ含ミアルモ當國ノ空氣竝ニ英國側ノ意嚮ヲ察スルニ強ク布哇ヲ主張スルトキハ結局全部ヲ不成立ナラシムヘシト觀測ス本官ハ貴電米國大使ノ申出ヲ基礎トシ比律賓「グアム」ノ現狀維持

ヲ提議シ日本諸島ノ防備ニハ觸ルルコトヲ避ケ度キ希望ヲ有スルモ若シ米國ニシテ之ヲ承知セス又英佛兩國ヨリ臺灣、小笠原島奄美諸島等防備ノ現狀維持ヲ飽迄主張シテ讓ラサル場合ニハ最後ノ腹案トシテ米國ヲシテ比律賓及「グアム」ノ防備ノ現狀ヲ維持セシムルト共ニ日本ハ基隆、澎湖島、小笠原島事宜ニ依リテハ奄美大島ヲモ現狀維持トナス心算ナルカ右ニテモ尙我ニ有利ナリト思考ス又同時ニ英佛加ハハリ香港及或佛領根據地ヲ現狀維持トナシ更ニ事宜ニ依リテハ新嘉坡ヲモ現狀維持トナスナラハ一層有利ナリ依テ此腹案ヲ以テ寧ろ進ンテ何等カノ了解ヲ遂クル方得策ナリト信ス次回海軍比率ヲ決スル時同時ニ本問題ヲモ協議セムト欲ス御承知置アリ度シ」

訓令

四、然ルニ同十日三、ノ趣ヲ打電スルト前後シテ帝國政府ヨリ比率ノ問題ニ關連シ次ノ如キ訓令接到セリ

海軍比率問題ハ太平洋防備問題及四國協商問題ト最モ密接ナル關係ヲ有シ二者共ニ頗ル重大ナル問題ナルニ鑑ミ帝國政府ハ御來示ニ基キ慎重審議ヲ盡シタル處十對七ノ勢力比ハ帝國國防安全ヲ確保スルニ絶對必要ナリトシテ我方ヨリ主張セラレタル次第ナルモ米國ニ於テ飽迄「ヒューズ」案ノ比率ヲ固執シ英國又之ヲ支持スル以上ハ我ニ於テ右主張ヲ貫徹スル事殆ント望ナシト考ヘラルルヲ以テ此際大局ノ利害並ニ協調ノ精神ヨリシテ米國提案ノ比率ニ同意スルノ外ナシ然ルト雖モ之カ爲我國國防上生スヘキ不安ニ對シテハ別ニ適當ナル方策ヲ立テ且國民ニ安心ヲ與フルノ途ヲ講セサルヘカラス此見地ヨリシテ比率問題ニ關シ我承諾ヲ與フルニ先立チ次ニ揭クル方針（五、參照）ノ趣旨ニ依リ太平洋諸島防備ノ現狀維持ヲ提議シ我目的ヲ達成シ得ル様極力御盡力アリタシ元來太平洋防備問題ハ米國ヨリ會議ノ提唱アリタル當初ヨリ帝國政府ニ於テ特ニ重キヲ措キ我國論ニ於テモ本問題ノ成行ニ對シ深甚ノ注意ヲ拂ヒ居ル次第ハ閣下御承知ノ通ニシテ今回會議ノ主要目的タル軍備競争ヲ防止セントスル精神ヨリ云フモ將又太平洋ニ於テ恒久平和維持ノ目的ヲ以テ今ヤ四國協商ヲ締結セントスル狀勢ニ鑑ミルモ本問題ノ提唱ハ事體當然ノコトニ屬ス殊ニ海軍兵力ノ制限ヲ實行セントスル以上ハ其ノ運用ニ密接ノ關係アル諸島ノ防備ニ對シテモ現狀ニ止ムルノ約定ヲ爲ス事至當ト云フヘク太平洋諸島ニ關シ平和維持ノ目的ヲ以テ四國協商ヲ設ケ若クハ兵力ノ制限ヲ約スルモ若シ各國競ヒテ此等諸島ノ防備ニ腐心スルカ如キ狀勢ヲ

招クノ虞アル以上ハ我國民ニ於テモ客易ニ承服シ難カルヘキハ勿論華府會議本來ノ使命ニ副フ所以ノ途ニ非サルヘシ從テ此點ヨリ云フモ我ヨリ防備ノ現狀維持ヲ主張スヘキ十分ノ論證アリト思考ス尙攝津ヲ犧牲トシ陸奥ヲ復活スルノ件ニ付テハ全力ヲ盡サレンコトヲ希望ス

五、太平洋防備問題ニ關スル方針

訓令

(防備問題ニ關スル方針)

- (一) 日米兩國(若クハ日英米佛)ハ各自本國ヨリ隔在セル太平洋ノ諸島 (outlying islands) 防備ノ現狀ヲ維持スヘク且ツ將來新ニ軍事的施設ヲ行ハサルヘキ旨ノ原則ヲ提議セラレ度シ(各國本土及之ニ近接セル島嶼竝ニ濠洲新西蘭各自治領ヲ含マサルモノトス)
- (二) 本件ハ主トシテ日米兩國間ノ問題ナルモ若シ米國側ニ於テ太平洋ニ島嶼ヲ有スル其他ノ諸國ト共ニ協議セムコトヲ希望スルニ於テハ我ニ於テモ異存ナシ
- (三) 本件適用區域ニ各國本土ヲ包含セシムル事ハ恐ラク他國ニ於テモ客易ニ承諾セサルヘク又日本本土ノミヲ加ヘントスルカ如キハ公平ナラサル事勿論ナリ或ハ米國側ニ於テ比律賓ト我本土トハ面積伯仲ノ間ニ在ルノ故ヲ以テ兩者ヲ一率ニ取扱フヘシト主張スルコトアルヤモ計リ難シト雖モ比律賓ノ運命ハ直チニ米國ノ存亡ニ關スル事無キニ反シ我本土ノ侵略ハ國家ノ存立ヲ脅スモノニシテ政治上ノ價值ニ者固ヨリ同一ノ比ニ非ス我ニ於テ十分辯駁ノ根據アルヘシ
- (四) 布哇ニ關シテハ若シ米國ヨリ強キ反對アルニ於テハ之ヲ本件適用區域外トナス事ニ同意セラレ差支無シ
- (五) 本件原則ハ成ル可ク四國協商又ハ海軍制限協定中ニ規定スルコト望マシキモ場合ニ依リテハ別個ノ文書交換ニ依リ又ハ共同宣言ニ依リテモ差支ナシ

第二款 假協定ノ成立

一、越エテ十二月十二日午後四時國務省ニ於ケル「ヒーズ」「バルフォア」兩氏トノ會見ニ於テ加藤全權ハ海軍比率ニ關シ

日英米三全權ノ會見ノ六割承認

十對六ヲ承認スルト共ニ太平洋ノ防備ニ關シテ左ノ如ク陳述セリ

「余ハ主力艦補充ノ噸數ニ於テ十對六ノ比ヲ承認セムト欲スルモ 同時ニ太平洋ニ於ケル要塞及海軍根據地ノ現狀維持ニ付テ明瞭ナル了解ヲ得ムコトヲ希望ス太平洋諸島竝ニ比律賓及「グアム」ノ如キ前進根據地トシテ何等ノ制限ナク全艦隊ヲ集中シ且ツ補給シ得ル様ニ充分發達ヲ許ササルナラハ同上英文

(I would like to obtain from you a clear understanding in regard to the principle of maintaining the status quo of the fortifications and naval bases in the Pacific. If the Pacific islands and especially a advance naval bases such as the Philippine and Guam are allowed to be fully developed, without any restrictions, into bases where the entire fleet can be concentrated and properly supplied, I am afraid that etc.)

余ハ日本政府カ國民ノ疑懼ヲ除去シ能ハサルヲ恐ル換言スレハ兩國民間ノ友情ハ忽チ敵愾心トナルヲ恐ル右ニ於テ余ハ本問題ヲ日米兩國間限リノ問題トシテ見タルモ若シ太平洋ニ於ケル要塞及海軍根據地ニ關スル了解英米佛及日本ノ四國間ニ成立スルヲ得ハ余ハ太平洋上ニ於ケル平和ノ維持ニ大ニ貢獻スヘシト確信ス之レ本會議ノ主目的タル軍備制限ノ達成ト相並シテ最モ希望スヘキコトナリ

右ノ理由ニ依リ日本ノ爲ニ要塞及海軍根據地問題ト切離シ十對六ヲ承認スルハ不可能ナリ此二件ハ同時ニ協議スルヲ必要ト認ム」

右ニ對シ「ヒューズ」氏ハ「太平洋防備問題中ニ布哇ヲ加フルナラハ全然本問題ニ觸ルルヲ欲セス上院亦之ヲ承認セサル可シ何トナレハ布哇ノ防備ハ純然タル防備ノモノニシテ且日本ヨリ遼隔ナルヲ以テ何等脅威トナルコトナケレハナリ」ト前提シ左ノ如ク陳ヘタリ

「日本カ五、五、三ノ比率ヲ承認スルニ於テハ太平洋防備ノ現狀維持ニ對シ異存ナシ元來比律賓及「グアム」ノ防備ハ何等攻撃ノ意味ヲ有セス全然防備ノナルモノアレトモ日本ノ立場ヲ諒トシ自分ハ現狀維持ニ賛成スヘシ右ハ日本ニ於テ

モ其前進セル島嶼ニ於テ現状維持ヲ守リ又他ノ四國協約國ニ於テモ然リトノ前提ノ下ニ於テナリ」ト述ヘタルモ別ニ日本ノ制限地點ヲ指摘スル處無カリキ

次テ「バルフォア」氏ハ

「英國亦欣然加藤男ノ意見ニ賛同シ香港ヲ現状維持トナスヘキモ濠洲新西蘭ハ何人ニモ脅威ヲ與フルコト無キヲ以テ布哇ト同シク此制限ヲ受クルノ限ニ非ス」

ト述ヘタリ依テ加藤全權ハ布哇ヲ除外スルコトヲ承認シ「ヒューズ」氏ハ佛國モ本問題ニ對シテハ異存ナカルヘシト語リタリ

更ニ「ヒューズ」氏ハ加藤全權ニ對シ防備問題解決スレハ比率ニ異存ナキヤト問ヒタルヲ以テ異存ナシト明答セリ

加藤全權
ノ報告

二、右會見終ルヤ加藤全權ハ會談ノ顛末ヲ委細帝國政府ニ報告シ且ツ左ノ通り稟申セリ

御訓令ニ依レハ太平洋防備問題ヲ先ニシ比率ヲ後ニスル趣旨ナルモ其ノ後ノ形勢ニ鑑ルニ英米兩國全權及新聞ノ注目シツアル比率問題ヲ避ケテ之ヲ後廻トナスハ事情之ヲ許サス又感情上不利ナリト認メ防備問題ト同時ニ比率ヲ論議シタリ御承認ヲ乞フ又本官最初ノ考ハ防備問題ト比率問題ト同時ニ解決シ陸奥復活ハ之ヲ別箇ノ問題トナス心算ナリシモ「ヒューズ」氏同意セス三件一絡ノ問題トナレリ比率問題ト防備問題トニ大ナル困難無クシテ大體希望ヲ達シ得ルヤニ存セラル

布哇ニ關シテハ過日(十二月一日)「ヒューズ」氏ニ話ヲ爲シ其ノ翌日ノ三人會議ニ於テ「ヒューズ」氏ハ布哇ヲ防備問題中ニ加フル能ハスト云ヒシモ本官之ニ返答セサリシ所今回「ヒューズ」氏ハ劈頭前言ヲ繰返シ布哇ヲ加フルナラハ全然此問題ニ觸ル能ハスト打テ出テタルヲ以テ本官ハ其除外ニ同意シタル次第ナリ

日英米三
全權會見
ノ假協
定ノ成立

三、十二月十五日午前十一時ヨリ國務省ニ於テ加藤全權「ヒューズ」「バルフォア」兩氏ト會合シ主力艦問題ヲ討議シ日英米三國間ノ協定ヲ成立セシメタル際加藤全權ヨリ本防備問題ニ關シ注意ヲ喚起シタル所「ヒューズ」氏ハ決シテ忘レタル譯

ニ非スト云ヒ主力艦問題ト共ニ防備問題ノ協定ヲモ併セテ海軍委員會ヘ報告スルコトトシ報告起草ニ取掛リタルカ「バルフォア」氏ハ英國ノ關スル限リ香港ノミニナリト云ヒ文句容易ニ決セサリシ處加藤全權ハ豫テ二様ノ草案ヲ準備シアリ其一ハ英米佛及日本ノ海軍根據地要案ヲ具體的ニ書キ込ムヘキモノナリシモ此際之ヲ提出セス他ノ一ハ左記ノモノニシテ之ヲ提示シタリ

Maintaining the status quo in regards to the fortifications and naval bases in the outlying insular possessions in the Pacific region, including Hongkong, but excluding the Hawaiian Islands, Australia, New Zealand, and the islands comprising Japan proper.

而シテ三全權協議ノ上左ノ如ク經メ同十五日午後四時汎米會館ニ開カレタル海軍制限十五人委員會 (Sub-Committee of Fifteen on Naval Limitation) ニ於テ比率問題陸奥問題等ノ主力艦問題ト共ニ議長「ヒューズ」氏ヨリ報告シ且ツ國務省ヨリ公表セラレタリ其本國問題ニ關スル部分左ノ如シ

It is agreed that with respect to fortifications and naval bases in the Pacific region, including Hongkong, the status quo shall be maintained, that is, that there shall be no increase in these fortifications and naval bases except that this restriction shall not apply to the Hawaiian Islands, Australia, New Zealand and the islands composing Japan proper, or of course, to the coasts of the United States and Canada, as to which the respective Powers retain their entire freedom.

加藤全權ハ右經過ヲ帝國政府ニ報告シ外務省ハ十二月十七日左ノ通り公表セリ

「海軍制限問題ニ關シ十二月十五日日英米三國首席全權ノ會合ニ於テ大要左ノ通り決定ヲ見タリ

一、日英米三國ハ各自主力艦ノ勢力比率トシテ三、五、五ヲ採用スルト同時ニ香港ヲ加ヘタル太平洋方面ニ於ケル要塞及海軍根據地ニ關シ現状維持ヲ約定ス但シ此制限ハ布哇諸島、濠洲、新西蘭及日本本土ヲ成ス諸島並ニ米國加奈陀ノ沿岸ニ適用セラルルコトナク比等ニ關シテハ當該各國ニ於テ完全ナル自由ヲ留保ス

二、(以下省略)

第四款 假協定ニ關スル全權ノ意見、政府ノ質疑訓令

「シヤバ
ン、プロ
バ」
關スル
加藤
全權
ノ
意見

一、十二月十六日加藤全權ハ本件ニ關シ左ノ意見ヲ帝國政府ニ稟申セリ十二月十五日成立シタル假協定文中ニアル太平洋防備ニ關シ(Japan proper)ヲ成ス所ノ諸島ナル文句ノ解釋ニ付テ種々ナル議論アルヘシト豫期セラルル所此ノ際強テ解釋ヲ下ス必要ナカルヘシ解釋次第ニ依リテハ我カ國ハ本官カ本問題ノ發端ヨリ「バルフォア」「ヒューズ」兩氏ニ對シテナセル交渉ノ内容ト相容レサル行動ヲモ取り得ヘキモ然ルトキハ國交上殊ニ對米關係上面白カラサル影響ヲ及ボスヘキヲ恐ル實際問題トシテ比律賓及「グアム」ノ現狀維持ハ帝國國防上最も有利トスル所ニシテ之ニ對シ臺灣澎湖島ノ現狀維持タルヘキハ當然ナリ又小笠原島奄美大島ハ當然日本本土ノ中ニ含マルモノト解釋スヘキモノト認ムルモ此新形勢ノ下ニ要塞建造ノ必要ナカルヘキヲ以テ中止セラルヘキモノナリ而シテ對馬壹岐等ニ關シテハ固ヨリ何等自由ヲ拘束セラルヘキ限リニアラス故ニ事實上現在ニ於テ右文句ノ解釋ヲ下ス必要ナカルヘク他日問題ヲ生シタルトキ適當ニ解釋ヲ附シテ然ルヘシト認ム

帝國政府
ノ
質疑

二、越エテ十二月二十二日右加藤全權ノ稟申ニ對シ帝國政府ヨリ左ノ諸項ニ關シ質疑アリタリ

(一) 英米側トノ交渉ニ際シ日本ノ關係ニ於テ防備現狀維持ノ適用ヲ受クヘキ諸島ノ何タルヤニ付閣下等ヨリ如何ナル程度迄言明ヲ與ヘタル次第ナリヤ

(二) 右ニ關シ加藤全權ヨリ英米兩國側全權ニ提示サレタル提案全文

(三) 貴電ニ依レハ Hughes 氏ハ防備問題ハ英佛其他東洋ニ關係アル總テノ國ト共ニ協議スヘキモノナリト述ヘタル趣ニテ且又在本邦米國大使ノ所言ニ依ルモ國務長官ハ本問題ニ關シ日英佛三國ニ於テモ其所領島嶼ニ同様ノ保障ヲ爲スヲ要スト述ヘタル趣ナル處十五日三首席全權會議ニ於テハ佛領諸島ニ付何等ノ決定ナカリシヤ

(四) 新嘉坡ノ除外ニ付テハ明確ナル諒解成立シ居ル次第ナリヤ

三、右ニ對シ加藤全權ハ本問題最初ヨリノ經過ノ要點並ニ(一)ノ我方提案(前掲)ヲ報告スルト共ニ左ノ如ク答申セリ

全權ノ答
申ハ政府
中
質疑ニ
對スル

(一) ニ關シテハ十二日ノ三首席全權會議ニ於テ本官ノ爲セル陳述ハ既ニ報告ノ通太平洋諸島比律賓「グアム」(The Pacific islands and especially advance naval bases such as the Philippines and Guam)ニ觸レタル外我方ノ島嶼ニハ何等言及セス又十五日ノ協定文起草ノ際ニ提示セル我方提案ニモ現狀維持ノ適用ヲ受クヘキ我方島嶼ニ關シ何等明言セス故ニ本件ニ關シ我方ハ未タ何等ノ言明ヲ與ヘ居ラサル次第ナリ而シテ目下日英專門家ニ於テ如何ニ現狀維持ヲ行フヘキヤニ關シ或ル細則ヲ設クル件ニ付極非公式ニ打合ヲ爲シツツアリ

(二) ニ關シテハ十二日三全權會議ノ際「ヒューズ」「バルフォア」兩氏共ニ佛國ハ防備現狀維持ニ異存無カルヘシト云ヒタルモ其後佛國ニハ相談ヲ爲サス十五日ノ公表トナリシ次第ニテ佛領諸島ニ就テハ勿論何等決定スル所ナシ但シ十五日十五人委員會ニ於テ佛國全權モ三國間ノ協定ニ賛意ヲ表シタリ

(四) ニ關シテハ三全權會議ノ際本官ハ特ニ新嘉坡ニ言及セス又最後ニ假協定ヲ一纏メタル際ニモ「バルフォア」氏ハ香港ノミナリト言明シ又山梨少將ト「チャットフィールド」少將トノ會談ニ鑑ミルモ此上之ヲ云フハ無益ナリト認メ敢テ提議セサリシモ右公表文ニ於テ新嘉坡ハ明ニ除外サレアルモノト思考ス

要スルニ本官ハ我方ノ地點等ニ關シ特ニ約束ハ爲シアラサルモ假協定ヲ眞ノ協定トナス際ニハ國際的信義ニ重ヲ置キ先ニ具申セル制限ヲ行フヲ以テ帝國ノ爲ニ有利ナリト認ム

四、更ニ十二月二十九日政府ハ現狀維持ノ意義ニ關シ左ノ如ク訓令セリ

訓令(現
狀維持ノ
意義ニ
關スル)

假協定ハ(一)現存施設ヲ擴張セサルコト及(二)將來新施設ヲ爲ササルコトノ兩者(no increase in strength or number)ノ意ヲ含ムコト字句上明確ナラサルヲ以テ協定條項起草ノ際此點ヲ明瞭ナラシムヘシ